事業概要

計測機器セグメント 各種センサー・表示機器類やソフトウエア、データ解析機器等の見込生産品 その他 13% 重電 センサー・計測機器 四輪 2% 35% 回転・速度計測機器、寸法・変位計測機 軽電 器、音響・振動計測機器、トルク計測機 6% 器、自動車性能計測機器等 農機・ 分野別売上構成 建機 (2023年) 7%

白動車関連

13%

機械 8%



データ収集・解析システム

FFTアナライザー、データレコーダー、 各種計測システム、ソフトウエア 等





くるま開発ソリューション

ラボラトリーオートメーション用のシステムやアプリケーション、各種試験装置 等





E&S エンジニアリング&ソリューション

音響・振動に関するコンサルティングサービス、当社製品のアフターサービス、エンジニアリングサービス 等

特注試験装置及びサービスセグメント 研究開発や品質管理用の特注試験装置、各種サービス等の個別受注生産品

二輪

16%

セグメント別概況

計測機器

■これまでの取り組み



2023年は、無線電圧計測モジュール WV-1100の発売やデジタル回転計のモデルチェンジ等、開発・生産現





場のDX・スマートファクトリー化 に貢献できる製品の提供を開始しました。

また、角度軸信号計測ソフトウェア ExAngleやノイズテスティング・ソフトウェア GN-1200の発売等、次世代自動車を中心とした新たなモビリティ社会の実現とカーボンニュートラル達成に貢献できる製品開発にも取り組みました。

■今後の戦略

価値創造

本セグメントでは、常々変化していくユーザーニーズに応じ、2024年も継続して新製品の開発及びシーズ獲得のための技術研究を行っていきます。2023年に発売したExAngleは新たに水素エンジンに対応したモデルの発売も予定しており、さらなる次世代開発への貢献を目指します。

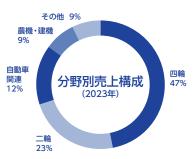
また調達面では一部部品にて供給の 不安定さが継続しており、引き続き正 常化に向けて取り組んでいきます。

一方で販売面では、アジア地域を中心とした海外市場での販売強化を目指します。今後は海外現地法人との連携をより一層強化し、サービス体制の拡充とともにグローバル市場での拡販を図っていきます。

また、Web展示会やウェビナーといった販売面でのDXもより一層推進させ、これをマーケティング分野にも応用し、新市場の開拓も行っていきます。

特注試験装置及びサービス

■これまでの取り組み



2023年は、自動車業界向けに自動 計測制御システム FAMS-R6を新たに 発売し、日々多様化する開発課題を解 決すべく "つながる" 技術を活かした "新しい試験のかたち" の提供を開始しました。



また、音環境への取組みとしてクラウドサービスSound Oneの提供開始や、新たなコトビジネスへの参入として計測技術を活かしたEVのベンチマーキングレポートの販売を開始し、当社の成長戦略を実現するための取り組みを推し進めました。

■今後の戦略

くるま開発ソリューション分野では、新製品であるFAMS-R6を中心に、当社の「はかる・わかる・つながる」という計測の力を活かし、まずはモビリティー領域での温室効果ガス排出量削減への貢献を目指していきます。

E&S分野では、クラウドサービス Sound Oneの販売をさらに加速させ、 幅広い分野での音環境の改善や社会的 課題の解決に挑戦します。また、ベン チマーキング レポート販売 においては、



対象車両や試験項目を拡充し、次世代 自動車開発の発展に貢献していきます。 これらコトビジネスの拡大により、当 社のビジョン実現に向けたさらなる顧 客価値創造を目指すだけでなく、コト ビジネスで培った新たなスキルや市場 情報を従来製品にもフィードバックさ せることで、会社全体の成長にも繋げ ていきます。

【確かな技術で音を"聴く"から"視る"へ】~音響計測用マイクロホン~

未知に挑む社員たち

新製品のローノイズマイクロホン MI-1282M10は従来機種では実現できなかった微小音の計測を可能にした。そこで、音響計測用マイクロホンの設計担当である市川和宏と製造担当の中野泰佑にズバリお話を伺った



技術本部 計測技術ラボ 技師 市川和宏

一マイクロホンとはどんな製品ですか? 市川和宏(以下、市) 「本製品は、音を電気信号に変換することで音の大きさ(圧力)や高さ(周波数)を計測するセンサーです。試作品の発生音圧測定や量産品の不良品検査といった、研究開発や生産ラインで使用されることが多く、自動車業界でいえばトランスミッ

製造ブロック 計測器製造グループ 係長中野泰佑

ションの歯車の生産ラインで異音検査に使用されています。また身近なところでは、航空機が飛行中に発する音圧が規定値以下になっているかを確認する計測にも使われています。当社では、計測できる音圧や周波数の異なるセンサーを数種類用意し、計測用途に沿った製品を提供しています。本センサー

は騒音計の検出部にも組み込まれ、さ まざまなシーンで活躍しています」

一これまで設計を担当されて良かったことや苦労したことはありますか?市「担当になった当初の開発では、音に関わること自体が初めてという状況にも関わらず難しい技術的課題に直面し、苦労の連続でした。しかしイチから技術を見直し工夫を重ねることで無事製品化でき、苦労も良い経験になりました。

マイクロホンは必要な技術の裾野がとても広く、音に関する知識だけでなくさまざまな知識を掛け合わせて設計する必要があるので、本センサーを通じ自身のスキルアップにも繋がっていると感じます」

―製造に関してはいかがでしょうか? 中野泰佑(以下、中)「本センサーは部品が細かく非常に繊細で、音を拾う部分に少しでも傷が付くと製品になりま

せん。また組立の調整具合によっても精度が変わってしまうため、製造工程も非常にシビアです。そのため、製造者によって精度が変わらない仕組み作りをしたり、細かい部分に気を配りながら作業しなければならない点は大変でありなが完成すると達成めありますね」

一2024年も新製品が発表されましたが、今後の展望を教えてください。市「近年は製品の静音化により騒音対策の要求が厳しくなり、マイクロホンに求められる計測領域・性能も広がっています。そこで、4月にローノイズマイクロホン MI-1282M10を発表しました。従来機種では出来なかった10dB台という微小音の計測を可能にし、新たな音の問題解決に貢献できると期待しています。今後も"今まで見えなかったものが視える"を目指し、さらなる研究開発に取り組みたいです」

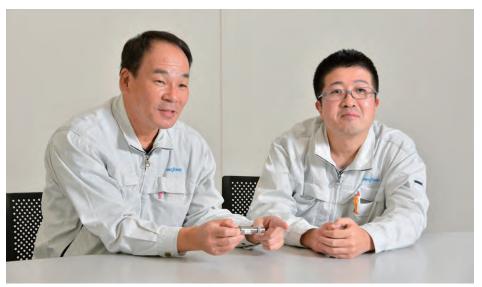
中「製造現場でも日々リードタイム短縮に取り組んでいます。また協働ロボット等の新しい技術の導入により一部工程の自動化も進んでいます。今後も高品質な製品を素早く提供し続けられるよう、さらなる改善・向上を目指し取り組んでいきたいです|



【技術と信頼で"安全"を支える】~回転検出器~

未知に挑む社員たち

設計担当である松本 裕と製造担当の谷山英樹に、回転検出器について、そして新製品の磁電式回転検出器 MP-9810について直撃した。回転検出器はなぜ産業に欠かせない存在なのだろうか?



製造ブロック 計測器製造グループ 係長 谷山英樹

一回転検出器とはどんな製品ですか? 松本 裕 (以下、松)「本製品は、回転している物体の回転速度を計測するセンサーです。当社で扱うセンサーには大きく分けて磁気式と光学式があり、物体に歯車や反射シール等を取り付けて計測を行います。主に回転体の監視に使用されることが多く、設備が安定して稼働しているかといった安全管理や、お客様の装置に組み込まれて回転速度

技術本部 計測技術ラボ リーダー 松本 裕

の監視・制御を行うセンサーとして活躍しています。本センサーは計測機器の中でも低価格で決して目立つ存在ではありませんが、回転体を多数扱う産業界においては非常に重要な役割を担っています!

一これまで設計を担当されて良かったことや苦労したことはありますか? 松「本センサーはどれもライフサイクルが長く、長年磁気式の代表機種を務

めてきたMP-981は約50年ほど生産 を続けています。長きにわたり安定供 給を維持し続けていくことは簡単なよ うで実は苦労も多く、部品等に変更が あっても量産品に影響が出ないよう 日々地道な創意工夫を重ね、また設計 者も代替わりしていく中で技術伝承を しっかりと行うよう意識しています。 一方で良かったこととしては、本セン サーの開発経験を通じ、視野が広がっ たと感じることです。計測機器は仕 様・性能といった数値上のスペックが 重要な指標ではありますが、"どれだ け壊れにくいか""どれだけお客様に 安心して使用し続けていただけるか" といった耐久性・信頼性等の大切さも 実感し、スペック以外の付加価値の重 要性を学びましたし

――製造に関してはいかがでしょうか? 谷山英樹「本センサーは、"回転体の

監視"という安全面で非常に重要な役割を担いつつも、厳しい環境で使用されることも多い環境ではいてもりのようないでもからです。そのようがルを超にないないを定供給を記しません。日々製造者のスキルアッのでは製造者のスキルアッのでは製造者のスキルアッのでは関づくりに取り組んでいます。センサーは製造質に

影響するため大変だと感じることもありますが、担当者同士で声を掛け合い 工夫しています。

私はもう40年ほど本センサーの製造に携わっていますが、長年継続してお使いいただいているお客様もいらっしゃいます。当社センサーへの信頼を感じ嬉しくなりますね!

――2024年は新機種が発売されましたね。

松「2024年4月に、MP-981の後継機として磁電式回転検出器 MP-9810を発売しました。長年、前機種を使用し続けていただいたお客様でも問題なく置き換えられるよう、前機種との互換性は保ちつつも耐環境性を向上させています。今後も安心して使用し続けていただけるだけでなく、これまで以上に多様な環境・計測シーンに貢献できることを期待しています」



【"真意"を理解し"真値"を導く】~受託試験・コンサルティングサービス~

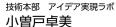
未知に挑む社員たち

受託試験・コンサルティングサービスを担当するアイデア実現ラボ長の松本祥執行役員と、担当者の溝口佳奈、小曽戸卓美にどんなサービスを提供されているかについて 直撃した



技術本部 アイデア実現ラボ 満口佳奈

執行役員 アイデア実現ラボ長 **松本 祥**





――受託試験・コンサルティングサービスとはどんなサービスですか?

松本祥 (以下、松)「本サービスは、お客様の要望に基づいて計測や解析を実施し、その結果のデータやレポートを提供するサービスです。自動車業界を中心に、計測のプロフェッショナルとしてお客様の課題解決に最適なサービスを提供し、世にある製品の性能向上に貢献しています。また、実際に社員

がユーザー側の立場に立ち得られた知見を社内にフィードバックすることで、 当社製品の性能向上にも一役買っています!

――担当される中で、良かったことや 苦労したことはありますか?

小曽戸卓美 (以下、小)「このサービスはお客様の要望の真意を理解していないと本当の意味でお役に立つことが出来ないので、そこが苦労する点でもあ

りますし、一番工夫している点でもあ ります。私は音・振動に関連するコン サルティングを行っているので、『音 を測りたい』『振動を測りたい』という 要望を頂きます。こういった要望は単 純なようで実は裏側にさまざまなスト ーリーがあり、その背景まで理解して いないと適切なアウトプットにつなげ ることができません。そのため、お客 様の話をじっくりと伺い、その要望の 真意まで理解してから作業を進めるこ とを常に意識しています。作業中はお 客様の大事な製品を預かることもあり 緊張感もありますが、他では経験でき ないことも多く面白い仕事だと感じて いますし

溝口佳奈(以下、溝)「お客様によって背景が異なることは確かにありますね。私は自動車関連の計測・解析を担当していますが、入社するまで自動車に携わったことがなかったため、学ぶことの多い日々です。しかしこの仕事を通じて技術的なスキルが身に付き、お客様に最適なサービスを提供できた時は、この仕事をして良かったと思える瞬間です」

松「お二人の話が聞けて嬉しいです。この仕事はお客様の大事な製品を扱ったり事故と隣り合わせの作業だったりと、プレッシャーの大きい職場だと思っています。責任者としては、そういった環境で仕事をするメンバーの精神的な

サポートも大切にしています。

――2023年からは新しいビジネスも 開始されましたね。

小「2023年の6月から、当社で購入したEVのベンチマーキングレポートを販売するビジネスを始めました。現状は二車種ですが、今後は順次対象車種を増やしていく予定です」

松 「業界に限らず、ベンチマークは技術が進歩するためには不可欠です。レポートの販売により、これまで個々の会社で実施されていた計測・解析を当社が担うことができ、ベンチマークにかかる期間が短縮され、自動車業界全体の技術発展にも貢献していけると考えています」

満「従来のサービスはお客様と一対一でしたが、レポート販売は一つの計測結果を複数のお客様の元に届けることができるので、より幅広いお客様の役に立てるようになったと感じています」

松「このビジネスは今後より一層、発展させていきたいですね」



小野測器とは 成長の軌跡 未来を創る成長戦略 未来を創る人たち **価値創造** 成長を支える基盤 コーポレートガバナンス Our informatic

【音から広がる新しい景色へ】~Sound One~

未知に挑む社員たち

グループ会社である (株) Sound Oneはグループとしては初のクラウドサービスとなるSound Oneを手掛けています。後藤CEOと石田取締役に立ち上げ時のエピソードや今後の展望についてお話を伺いました



(株) Sound One 取締役 石田康二

---Sound Oneとはどんなサービスなのですか?

後藤泰宏 (以下、後)「本サービスは、 当社が得意としている"音"に"クラウドサービス"を掛け合わせたもので、 クラウド上に音のデータを集めて活用していただく新しいWebアプリケーションです。一番の特長は、製品が発する音 (サイン音や動作音等)を人が聞いた時にどう感じるか、という聴感

(株) Sound One CEO 後藤泰宏

評価をWeb上で実施できる聴感アンケート (Audio Test) という機能です。これまでの聴感評価は実際に一ヵ所に人を集めて実施していましたが、本サービスはWeb上で完結するため、音の評価にかかる手間や時間を削減し、且つより大勢の方に参加してもらうことができるようになりました。この機能は当社独自のもので、2023年の始めにサービスを開始して以来、製品の

異音対策はもちろんのこと、世の中 の"快適な音創り"に貢献していますし ---Sound Oneに携わって嬉しかった ことや大変だったことはありますか? 石田康二 (以下、石) 「本ビジネスがま だ構想の段階だった際に『こんなサー ビスを作りたい』とお客様にお話しし たことがありましたが、その際に『い いね』と共感をいただけたことは嬉し く、また開発を進めるにあたっての支 えになりました。ただ、本サービスは これまで世になかったものなので、ま だその価値を広く認知していただくこ とができておらず、その点ではもどか しさを感じているところでもあります| 後「私としては、従来のさまざまな制 約や固定概念に囚われない自由な発想 の下で事業を進めさせてもらっている ので、そういった環境を与えていただ いていることには非常に感謝していま す。また、最近では当社の環境が親会 社にも良い影響を与えられていると感 じるようにもなり、嬉しい限りです。 本サービスのように新しいことに挑戦 するということは責任も伴いますし、 見えていなかった課題に直面すること もあり苦労も多いですが、挑戦するう えでは当たり前のことだと思っていま すし

---Sound Oneの今後の展望についてお聞かせください。

後「"音に対する人の感じ方" といって も同じ音に対する受け止め方は人それ ぞれで、また音の好みというのは地域や年代によっても変わります。今までの音創りではそういった細かい部分までは対応しきれていないことが多かったと思いますが、聴感アンケートはWebを通じて世界中で聴感評価を実施できるので、例えば国別・地域別で製品の音を変える等、より深い音創りにもグローバルに貢献していけると考えています

石「音というのは地平が広いので、これまで小野測器が得意としていた産業界だけでなく、アートやエンターテインメント等音を通じて領域を跨いでいくようなビジネスの展開もしていきたいですね」

後「そうですね。このサービスは縦にも横にも伸びしろがあるので、成長を続けた先にはものすごく広い景色(可能性)が待っていると感じています。 今後は、そういった広がり感にもぜひ期待していてください!



ポータルサイト https://soundone.jp/